



経営支援NPOクラブ ニュースレター

A stylized feather graphic in shades of blue and grey, positioned to the right of the text "ニュースレター".

2025年度版 年間活動報告書

www.ka-npo.com/

目 次

理事長 酒井 基次 挨拶	3
(支援実績及び活動状況)	
1. 《中小企業成長加速化補助金【100億円宣言】》	5
2. 《令和7年度中堅中核企業経営力強化支援事業》	5
3. 《ハンズオン支援事業（テストマーケティング）》	6
4. 《北海道（道内企業による半導体関連産業 への参入促進・取引拡大）》	6
5. 《秋田県「サプライチェーン参入支援事業」》	6
6. 《秋田県社会課題解決型商品開発支援事業》	7
7. 《みやぎ産業振興機構「引合せ支援」》	8
8. 《みやぎ産業振興機構「生産現場支援」》	8
9. 《宮城県気仙沼「販路開拓相談会」》	8
10. 《メディカルクリエーションふくしま2025》	9
11. 《栃木県(自動車関連:展示会)》	9
12. 《栃木県(成長産業参入支援専門家派遣支援事業)》	10
13. 《栃木県(企業評価活動支援事業)》	10
14. 《栃木 足利銀行「ものづくり企業展示商談会」》	10
15. 《鹿沼商工会議所》	11
16. 《さいしんビジネスフェア2025》	11
17. 《埼玉県売力強化応援事業》	12
18. 《板橋区①ビジネスチャンス開拓支援》	12
19. 《板橋区②板橋区北区ものづくり企業商談会》	13
20. 《浜松地域販路開拓コーディネート支援プログラム》	13
21. 《三重県(医療・福祉機器等ヘルスケア)》	14
22. 《三重県(自動車)》	15
23. 《「しがモノづくり技術プロモーション事業」個別商談会》	15
24. 《大阪府信用金庫協会(信金合同BMフェア)》	16
25. 《大阪信用保証協会(OSAKAビジネスフェア2025)》	16
26. 《きたしんビジネスマッチング2025》	17
27. 《AIR(公財尼崎地域産業活性化機構)》	17
28. 《しまねものづくり企業展示会支援》	18
29. 《STEP(ヘルシー四国販路開拓支援)》	18
30. 《かがわ産業支援財団》	20

3 1.	《高知県企業支援案件 in 関西》	2 1
3 2.	《高知県企業支援案件 in 関東》	2 1
3 3.	《日本食糧新聞社》	2 1
3 4.	《産業交流展》	2 1
3 5.	《組合祭り in 東京》	2 2
3 6.	《次世代ものづくり基盤技術産業展》	2 2
3 7.	《東京デジコンクス》	2 3
3 8.	《中部ライフガードTEC展》	2 4

＜経営支援NPOクラブ内のグループの活動報告＞

4 1.	《Aグループ》(農林水産、食品他)	2 4
4 2.	《Bグループ》(化学、素材、環境他)	2 4
4 3.	《Cグループ》(機械、電機他)	2 5
4 4.	《ヘルスケアグループ》(医療・介護)	2 6
4 5.	《Eグループ》(ICT、その他)	2 6
4 6.	《関西グループ》	2 7
4 7.	《次世代育成支援グループ》	2 7

＜研究会・タスクチームの活動報告＞

4 8.	《新素材研究会》	2 8
4 9.	《エネルギー産業研究会》	2 8
5 0.	《中小企業経営強化支援チーム》	2 9
5 1.	《環境事業支援研究会》	3 0
5 2.	《デジタル・イノベーション支援チーム》	3 1
5 3.	《自然大災害復興支援プロジェクトチーム》	3 1
5 4.	《起業家支援チーム》	3 2
5 5.	《人材不足対策支援チーム》	3 3
5 6.	《国内・国外ポータルサイトチーム》	3 3
5 7.	《子ども食堂支援チーム》	3 4
5 8.	《特定支援会員連携チーム》	3 4
5 9.	《健康経営チーム》	3 5
6 0.	《広報委員会》	3 5

＜2025年度の活動概要（事務局報告）＞

1.	公的機関等からの受託契約実績	3 7
2.	2025年度支援実績	3 8
3.	2025年度4月以降の理事会での主な討議事項（対外事項のみ）	3 8
4.	会員の現況（2026年4月末現在）	3 8
	（編集後記）	3 8

※ 番号の付いている見出しをクリックすると、所定のページに飛びます。



経営支援NPOクラブ

ニュースレター

ご挨拶

(2025年度総括)



理事長 酒井 基次

2026年2月末に開始された米・イスラエル連合軍のイラン攻撃により、ホルムズ海峡の封鎖という事態に陥り、原油・天然ガス価格の高騰を招き、世界経済や安全保障に歴史的な影響を及ぼしています。特にエネルギー供給の約9割を中東に依存する我が国にとって、ホルムズ海峡の封鎖と原油・天然ガス価格の高騰は、家計から産業構造まで広範囲にわたって、甚大な打撃を与えています。また円安がそれに拍車をかけています。リスクオフの動きから、ニューヨーク市場や東京市場では株価が乱高下する等、金融市場も混乱しています。

国内では通常国会冒頭解散による総選挙で与党が圧勝し、過半数を確保しました。高市第2次政権の最大の課題は物価高対策となりますが、今後も厳しい事業環境は継続しており、未だ予断を許さない状況にあります。

中小企業の皆様におかれましても、このような政治・経済的環境の下、多くの影響を受けることが想定されますが、外的要因の影響を最小限に抑え、今後の事業回復・成長への取組みにつながることを祈念いたします。

NPOクラブの活動については、期首計画では予算規模は縮小しましたが、黒字予算でスタートいたしました。しかし、失注案件や案件規模の縮小等により、中間見直し時点では、経常費用が経常収入を上回り、結果として赤字見通しとなりました。その後、固定費は予算以内で進捗している中で、個別案件の積み上げ等の収入の伸び等から、何とか黒字を確保できました。

会員一同は新年度も引き続き、販路開拓支援を中心に種々の支援活動に積極的に取り組む所存です。皆様には引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

以下、NPOクラブの第24期（2025年度：2025年4月～2026年3月）の活動についてご報告いたします。

なお、支援の内容の詳細に関しては、後出の案件毎の報告をご参照願います。

2025年度も、中央官庁、自治体、公益法人、商工会議所、金融機関、支援企業等の皆様から、数多くの案件を受託することができました。支援活動として、販路開拓支援、展示商談会支援、事業・プロジェクト支援を主体にした中小企業への経営支援活動、大学等の教育機関での講演、インターンシップやサイエンスアゴラへの出展などの次世代育成支援活動等を行いました。

その結果、事業収益に直結する支援企業数は1,657社、支援回数は2,926回となり、新規イベントの獲得等もあり、支援企業数は増加したものの、支援回数は前年度、前々年度を下

回る結果となりました。支援内容としては、マッチングなどによる販路開拓支援が中心ですが、総合的な経営相談、デジタル技術活用支援、新技術の事業化支援などの新しい支援活動も定着してきました。

また、2025年度は3年毎に策定しております中期活動方針の2年度目にあたりました。中期活動方針は、高齢化・人口減少、人材不足、円安・物価高等の社会・経済環境、及び生成AIの発展等の技術環境の大きな変化が予測される中で、NPOクラブでの研究会活動内容等も活かして、社会ニーズに合わせた柔軟な対応ができる組織活動の展開を目指して策定しました。

- A. 中小企業への経営支援活動（収益活動）
- B. 社会貢献活動（非収益活動）
- C. 運営体制の整備・充実

の3つの基本方針の下に、委託元から受託した支援活動に加えて、毎年重点課題を設けて会員がチームを組んで課題達成に向けた活動をしています。

25年度の重点課題は24年度を継続し、

- ①スタートアップ企業支援
- ②新領域収益事業開拓
- ③人材不足対策支援
- ④会員の活躍し易い環境の確保の新規

の4課題を含め、12課題を設定しました。

- 「A. 中小企業への経営支援活動」では、案件委託元（中央官庁・自治体、イベント企業、金融・商工会）との連携強化、新技術の事業化支援、デジタル技術の活用
 - 「B. 社会貢献活動（非収益活動）」では、次世代育成支援活動の推進、有望 中小企業の発掘と総合的支援
 - 「C. 運営体制の整備・充実」では、デジタル環境整備と正会員対応力向上などを挙げました。
- 各課題の達成状況については年始の進捗状況報告会で確認いたしました。

組織および個人のポテンシャルアップを図り、中小企業の支援活動等に活かすことを目的に発足した研究会・タスクチーム（3研究会・8タスクチーム）は、内部活動として着実に各関連情報の収集・支援活動への活用準備の活動を行っています。（研究会・タスクチームについてはホームページ「NPOクラブとは-組織図」で、活動の詳細については後出の報告でご確認願います）。

NPOクラブの更なる発展のためには、皆様のご支援・ご協力の下、中期活動方針に則り、中小企業支援、次世代育成支援、自然大災害復興支援等の社会貢献活動において、より実効性を高め、枠を拡げた支援活動に邁進することが必要です。

引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

支援実績及び活動状況

1. ≪中小企業成長加速化補助金【100億円宣言】≫

2026年度中小企業成長加速化補助金【100億円宣言】に関して、関東経済産業局よりNPOクラブへの支援依頼はありませんでしたが、NPOクラブが支援している企業が本件に応募しました。申請及び審査に関して、同局には 個別に指導・アドバイスを頂きました。

3月には、同局地域経済部の室住次長様に、加速化する日本経済の構造変化と企業の動向を踏まえ、「2026年中小企業支援施策」と題して、千代田スポーツセンター会議室にて講演を頂きました。当NPOクラブの今後の支援・活動の指針となる大変有意義なお話でした。また講演会終了後の懇親会にもご参加頂き、より一層の親密な関係を築く事ができ、大変良い機会にもなりました。

2. ≪令和7年度中堅中核企業経営力強化支援事業≫

「中堅中核企業経営力強化支援事業」は、令和6年度より経済産業省が実施している中堅企業の挑戦を後押しする支援事業です。令和6年度は、当NPOクラブが補助事業者として、経済産業省より受託して中堅企業の支援を実施しましたが、令和7年度は、長野県上田市にある一般財団法人浅間リサーチエクステンションセンター（AREC）のパートナーとして、中堅企業の支援を行いました。

支援を行った中堅企業は新潟県新潟市にあるワイナリーリゾートの株式会社カーブドッチです。カーブドッチは自社ぶどう畑と醸造所を中心に、レストラン・ベーカリー・スパ・宿泊施設を併設する滞在型リゾートを展開しており、「ワインを核にしたライフスタイル」を提案し、地域の食と観光を融合させた事業を行っています。今回の支援事業で、ブランド力の更なる強化、事業拡大に向けた富裕層の集客、補助金活用などの支援を実施しました。

また、カーブドッチは、経済産業省・中小企業庁が実施している「100億宣言」に参加表明し、更なる事業の拡大を目指しています。



写真はカーブドッチ社のHPより掲載

3. 《ハンズオン支援事業（テストマーケティング）》

NPOクラブでは、2025年度中小企業基盤整備機構ハンズオン事業のお手伝いを始めました。採用に70歳未満という年齢の縛りもあり、試行錯誤を前提としたマッチング等の困難さがあり、以下の実績に留まりました。

- ・現地派遣アドバイザーは1名採用され、1社3回の支援を行いました。
- ・実践アドバイザーは1名採用されましたが、マッチングには至りませんでした。

4. 《北海道（道内企業による半導体関連産業 への参入促進・取引拡大）》

千歳市にラピダス株式会社の半導体工場が建設されたことをきっかけに、北海道庁は道内の産業の活性化を目指しています。北海道中小企業総合支援センター（HSC）と北海道機械工業会が共同体を組み、その実務を担っています。

HSCから委託を受け、当NPOクラブは、2025年6月に参画することになり、半導体関連に知見のあるメンバー5名をコーディネーターとして選任しました。活動は、道内企業に対し、半導体関連の事業計画をヒアリングすることが主体です。北海道への工場進出を検討しているかを質問し、結果をHSCにフィードバックし、必要に応じ、HSCとNPOクラブで協力し対応しました。実績として、70社に対するヒアリング、3件のマッチング、2件の道内企業研修を行いました。



千歳市のイーム(ラピダスの半導体工場)

2026年度の事業内容としては、今後のラピダス株式会社による半導体チップの量産開始をにらみ、道内外企業が参画できるよう支援体制を整えることを目標にしています。

5. 《秋田県「サプライチェーン参入支援事業」》

秋田県（産業労働部地域産業振興課ヘルステック産業チーム）から、昨年に引き続き秋田県企業の医療機器産業サプライチェーンへの参入を支援する事業を受注しました。

計画した支援をすべて実施し、目標を上回る成果をあげ、委託元の秋田県の要望に応えました。

(1) 医療機器メーカー等のサプライチェーンへの参入支援

応募企業14社と面談し、現状把握及び支援に対する要望などを聞き、既存製品に対するアドバイス、カルテシート作成、PRシート作成、マッチング、個別支援などの支援を行いました。

(2) 県内医療機器メーカーでの展示会開催

秋田住友ベーク株式会社で見学展示会を8月5日に開催し、工場・研究所の見学と秋田県企業5社が会議室に製品を並べ工場・研究所の関係者に見ていただく展示会を開催しました。

(3) マッチング

マッチングは県内企業11社に対しトータル24件実施し、成果に繋がる面談を目標の6件以上達成することができました。

また、下記展示会に出展した秋田県企業に対してもマッチングを行いました。

- *メディカルショー
- *メディカルクリエーションふくしま
- *産業交流展
- *OSAKAビジネスフェア（NPOクラブ関西グループが支援）



見学・展示会開催

秋田県産業労働部地域産業振興課
(サブライティーン参入支援事業)

秋田住友ベーク株式会社 見学・展示会のご案内

プラスチック材料の製造業から医療機器分野に進出した住友ベークライト株式会社の子会社で、医療機器や理化学機器の研究開発、製造を行っている秋田住友ベーク株式会社の見学会を開催いたします。
また、企業の見学会も併設いたしますので、ご希望の方は申し込みください。

日時	2025年8月5日(火)	日程の詳細は裏面へ
	第一部 県内企業展示会 11:45 ~ 12:45	
	第二部 事業所見学会 13:00 ~ 14:10	
	第三部 県内企業展示会 14:10 ~ 15:00	
場所	秋田住友ベーク株式会社 秋田市土崎港相模町字中島下27-4 TEL:018-845-1181	
対象	秋田県内に事業所を有し、医療、福祉機器等の製品開発に関心のある企業	
参加	無料(交通費は各社負担)	
定員	見学会:30名(1社2名以内) 展示会:10社程度	
申込み	二次コードまたは次のURLから申込フォームにアクセスし、必要事項を登録ください。 https://tzk.graffier.jp/pref-akita/smart-apply/apply-procedure-alias/smb-tenzi	

お問合せ先

【主催】秋田県産業労働部地域産業振興課ヘルステック産業チーム
担当:木谷 貴則、高橋 晴
TEL:018-860-2246
E-mail: induprom@pref.akita.lg.jp

【運営】特定非営利活動法人経営支援NPOクラブ 担当:高尾 正人
〒101-0047 東京都千代田区舟町1-5-13
TEL:03-5577-6785 携帯:090-5784-8018
E-mail: takao.masato@ka-npom.com

※本事業は、秋田県より委託を受けた特定非営利活動法人経営支援NPOクラブが運営いたします。経営支援NPOクラブは、様々な業種の企業OBが200名以上在籍しており、永年の企業活動で培われた経験や幅広い人脈を活かしながら、全国の中小企業の経営支援を行っています。

6. ≪秋田県社会課題解決型商品開発支援事業≫

秋田県社会課題型商品開発支援事業は、県内企業がこれまで培ってきた技術等を活用し、医療や健康、防災に関する社会課題を解決するビジネスモデルを構築するため、大学や公設試験研究機関等と連携して行う研究・開発から実証、社会実装までを伴走支援するものです。

以下の事業を実施しました。

(1) 事前相談

本事業の活用に関心がある県内企業5社に対し、WEB面談により、現在製造している製品や技術力を把握した上で、本事業への申請についての事前相談を実施しました。

(2) 伴走支援および技術開発動向調査と販路開拓調査

本事業採択の県内企業2社に対し、訪問およびWEBにより、本事業に採択された製品・サービスの社会実装に向けた伴走支援をそれぞれ3回実施しました。また、この県内企業2社に対し、技術開発動向調査と販路開拓調査をそれぞれ計3回実施しました。

(3) 「ソーシャルイノベーション創出交流会2025」

(令和8年2月5日開催)

本事業採択県内企業2社の成果報告があり、拝聴しました。

秋田県社会課題解決型商品開発支援事業

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	5 社事前 相談		2 社採 択決 定	2 社企 業訪 問	2 社W e b 面 談	2 社W e b 面 談	交 流 会 2025
				伴 走 支 援	伴 走 支 援	伴 走 支 援	

技術開発動向調査(3回)
販路開拓調査(3回)

地域社会の課題解決に向けた、新しい連携と共創。を生み出す

ソーシャルイノベーション 創出交流会2025

参加無料
要申込み

日時 | 令和8年2月5日 木曜日 13:30~16:00
場所 | 秋田拠点センターアルヴェ 2階 多目的ホール
対象 | 県内企業、県内外スタートアップ企業、商工団体、市町村、大卒・公務員等財団機関、全道機関 など

13:35~14:35 フェーズフリー「日常」を超えた価値を創るデザイン
公益社団法人フェーズフリー 協会 代表理事 佐藤 隆行 氏

14:40~15:30 グッドデザイン賞からみる日本のものづくり企業の動向
～近年の受賞対象からより良い社会をつくるデザインの可能性を探ります～
公益社団法人「デザイン振興会」事務局 課長 佐藤 隆行 氏

15:35~16:30 「社会課題型商品開発協働事業」採択企業の取組紹介
株式会社アルファシステム 代表取締役 佐藤 高良 氏
株式会社インシメトロニクス 代表取締役社長 佐藤 大樹 氏

16:30~16:50 ライトニングトーク
次の4社が「日常」を超え、新たな社会課題を解決するプロジェクトを紹介!

★協賛向上株式会社
★特定非営利活動法人パフォーマンススマイル
★株式会社エニクス
★ATA Inc. 株式会社

★株式会社 MOTTONE
★株式会社ライオンズ

参加申込 |
下記URLまたは二次コードから、
令和8年1月27日火曜日まで申し込みください。
URL: <https://tzk.graffier.jp/pref-akita/smart-apply/apply-procedure-alias/smb-tenzi>

お問合せ先 | 秋田県産業労働部地域産業振興課 ヘルステック産業チーム
TEL: 018-860-2246
E-mail: induprom@pref.akita.lg.jp

7. 《みやぎ産業振興機構「引合せ支援」》

2025年度は、みやぎ産業振興機構から「引合せ支援事業」「生産現場支援事業」の2つを受託しました。期間中、みやぎ産業振興機構とは支援進捗状況等の情報交換を緊密に行いながら、目標達成に向けて取り組んできました。

1. 引合せ支援事業及び専門家派遣

販路開拓のためのマッチングを目的に、5月にキックオフを行い翌年2月末までの約10カ月間で新規引合せ支援、昨年度からの継続再引合せ支援、各種展示会への企業招致の3つの形で進めてきました。

- (1)今年度は継続支援の4社を含め11社が対象となり、1社につき6～7回のマッチングを基本にしています。
- (2)その内食品系の企業は継続支援の4社を含め6社、工業系の企業が5社を対象に支援しました。
- (3)食品関係はAグループに、化学・工業関係はBグループ・Cグループ・ヘルスケアグループのメンバーを中心に活動しました。
- (4)展示会への企業招致としては、東京ビッグサイトや幕張メッセで開催された各種展示会に出展した支援企業対し、ブースへの企業招致を行いました。
- (5)結果として、11社に対し87回のマッチングを実施しました。
- (6)その他、期末において金融支援課及び水産加工事業支援課より2件の専門家派遣事業を受託し、事業者に対する社員研修や営業支援のアドバイスを行いました。

8. 《みやぎ産業振興機構「生産現場支援」》

プラスチック加工を事業とする企業に対し、生産現場の改善や課題解決、人材育成等に精通した会員が専門家として企業の現場に入り、リモートも含めて11回の活動をしました。

みやぎ産業振興機構は2010年（平成22年）度の支援開始以来16年、取引実績を管理・把握し、相応の結果が出ていることから、2026年度以降も引き続き、NPOクラブに事業の委託を行いたいと希望されています。

その期待に応えるよう努力したいと思えます。

9. 《宮城県気仙沼「販路開拓相談会」》

宮城県気仙沼地方振興事務所が主催する「気仙沼南三陸販路相談会」は、2015年度から開始され、10年目になる2025年度は、気仙沼・南三陸町の水産加工業者の販路開拓（マッチング）支援事業を受託しました。

- (1)今年度は販路開拓支援事業として2社がリストアップされ、9月下旬に相談会を実施しました。
- (2)現場視察を含めたブラッシュアップ訪問の結果、販路紹介をするにはまだまだ難しいと判断して、伴走支援型の支援に切り替えることにしました。
- (3)県側の内部調整にも時間を要しながら、途中WEBミーティングを経て、2月中旬の現場支援を実施しました。

この相談会は規模的には小さいながらも、被災地の水産加工業者の支援を継続している事に対して評価を頂いており、次年度も継続支援の方向です。

10. 《メディカルクリエーションふくしま2025》

NPOクラブは、医療機器分野への参入や販路拡大を目指す出展企業に対して、展示会での発信力向上を図るとともに、開発製品に対する評価や助言を通じて技術・事業展開の促進を目指すことを目的として支援しました。

2025年9月11日から2025年11月30日の事業期間に以下の事業を実施しました。

(1) 出展企業の保有技術や製品の発信に関する助言

医療機器分野への展開を図る企業に対し、展示会における技術・製品の効果的な発信方法についてWEB面談により助言を行いました。（1社当り60分程度）実施企業は3社で、NPOクラブは各企業に2名配置して対応しました。

面談を行った企業には、NPOクラブがサポートしながら訴求したい自社の技術や製品を分かりやすく記載したPRシートを作成いただき展示会で配布しました。

(2) 出展企業ブースツアーの開催

メディカルクリエーションふくしま2025の出展企業のブースを訪問し、展示内容と方法、保有技術・部材の医療応用の可能性や製品評価・販路開拓等に関する助言を実施しました。

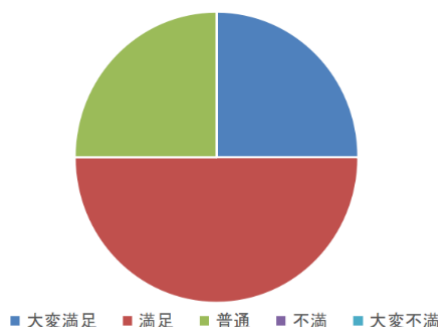
2日間で11社のブースを各2名担当で訪問（1社あたり30分程度）しました。

(3) NPOクラブの支援に関し、出展支援企業11社にアンケートを実施しました。

(4) 事前に行われた出展企業説明会にて、NPOクラブの会員が講師となり「来場者視点で考える！成果につながる展示会出展とPRの仕方」と題しセミナーを実施しました。



NPOクラブブース



Q:今回の支援の満足度 N=8



出展者説明会セミナー

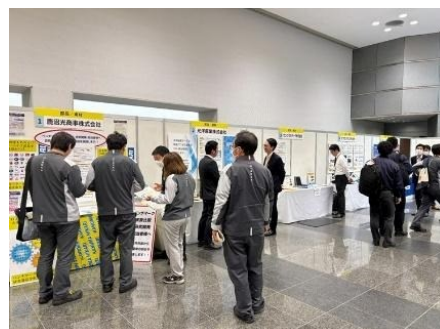
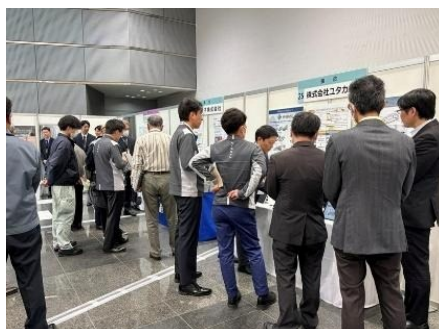
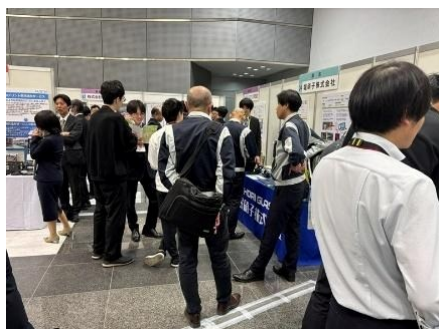
11. 《栃木県(自動車関連:展示会)》

栃木県の2025年度活動は栃木県産業労働観光部工業振興課からの業務委託で3つの支援事業を実施しました。

1. 日産自動車栃木県企業技術商談会事業支援

栃木県企業27社が参加して日産自動車テクニカルセンターでの展示商談会での支援を実施しました。主な活動は参加企業の保有技術を来場者が短時間で理解できるよう展示方法・説明資料作成の指導及び日産企業関係者への参加招致活動でした。

実施結果は開催2日間で日産自動車関連来場者は391名、参加者アンケートでは商談希望、詳細資料請求等が多く出た商談会になりました。



1 2. ≪栃木県(成長産業参入支援専門家派遣支援事業)≫

栃木県より上記事業実施の委託を受けて合計7社(金属加工、樹脂加工、情報機器、電子回路、食品再利用、検査機器製作)に対してNPOクラブ内で各社2名の専門家を決め企業訪問して伴走支援活動を実施しました。

各社に対し5回の活動を行いました。初回訪問で企業状況把握・企業要望を確認し、各社の課題解決のためのアドバイスを提供しました。主要活動は以下のとおりです。

- ・ 自社の強み・弱みの確認(SWOT分析、クロスSWOT分析)
- ・ 事業拡大対応戦略作成
- ・ 事業展開調査目的企業面談
- ・ 販路拡大企業マッチング

上記事業は次年度も継続実施予定です。

1 3. ≪栃木県(企業評価活動支援事業)≫

活動内容は全6回実施し、栃木県庁会議室及びWEB会議で、企業申請書の内容確認、及び企業プレゼンでの質疑応答結果の総合評価をしました。

評価実施企業数は総計72社、企業名は省略しますが結果は栃木県ホームページで確認できます。上記11～13の各事業は次年度も継続実施予定です。

1 4. ≪栃木 足利銀行「ものづくり企業展示商談会」≫

本年度も足利銀行主催の「ものづくり企業展示・商談会2025」への発注企業の招致と商談のサポートを受託しました。本商談会のサポートは2018年から始まり8回目となります。

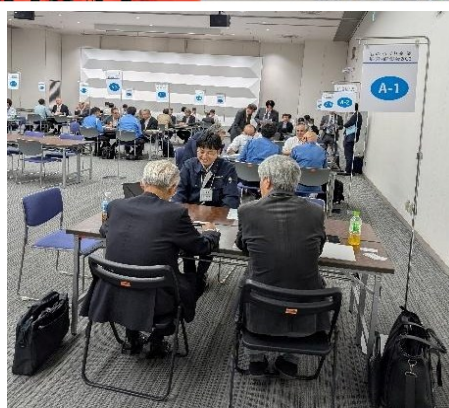
10月21日(火)宇都宮マロニエプラザにて、出展企業数195、発注企業数65、予約商談件数262の規模で開催されました。

NPOクラブは発注企業数のおよそ半数の34社37事業所を招致し、予約商談件数の4割に当たる112件の商談をサポートしました。

ものづくり企業展示・商談会2025

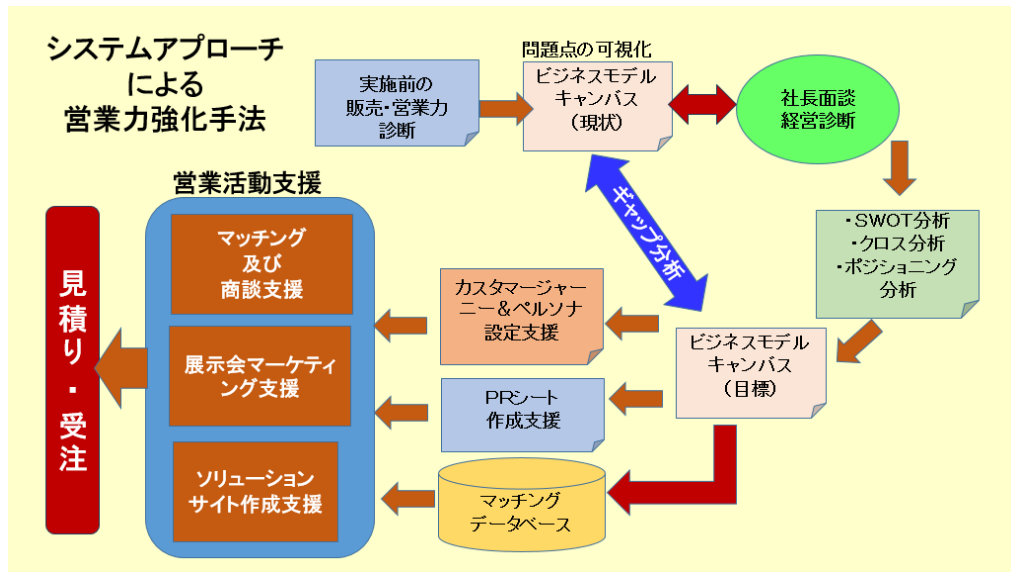
2025.10.21 (火曜日)
10:00~16:00

会場：マロニエプラザ
栃木県宇都宮市元今泉6-1-37



17. << 埼玉県販売力強化応援事業 >>

販売力強化応援事業とは、国が推進している中小企業活性化のための重要施策であり、各県が経営革新計画事業として推進しています。埼玉県はこの事業のトップを維持しています。そして私達、NPOクラブの実務経験者が販売力強化アドバイザーとして今年も16社の中小企業を支援しました。



16社の内訳は小売業、飲食業、卸売業、そして製造業等と幅広いのが特徴です。それらの企業様に対して、NPOクラブの実務経験者がチームを組んで一緒になって8月から翌年の2月までPDCAベースの支援を行います。

図1のようにSWOT分析やビジネスモデルキャンバスを活用して自社の強みをPR用の1枚のシートにまとめ、それをベースにして商談先を絞り込みます。

基本的には前半で自社製品の特長(採用によるメリット等)をアピールする資料を作成し、後半で、見込み客とのマッチングを行います。進め方は企業様との打ち合わせによって決めていきます。マッチング先はNPOクラブメンバーの出身企業を中心にしていますので、比較的成功率は高いです。

18. << 板橋区①ビジネスチャンス開拓支援 >>

令和7年度の支援活動は、「ビジネスチャンス開拓支援事業(課題解決型個別支援)」及び「板橋製品技術大賞フォローアップ支援」の2パターンでの支援を行いました。

「ビジネスチャンス開拓支援事業(課題解決型個別支援)」にはマーケティングスキル向上支援コースと販路開拓支援コースの2コースがあります。

近年、ものづくり中小企業からの応募が少なく個人事業主からの応募が多くなりました。その関係でEグループの関連内容となり、またマーケティングスキル向上コースの支援が増加傾向にあります。

支援活動の流れで「産業交流展」や「東京デジコンクス」に個人事業主をお連れして情報収集や関連企業との名刺交換を通して非常に有意義な活動も出来ました。

ある個人事業主は会場で10数社と名刺交換を行い、直ぐに自社のPRをメールで発信し、仕事に繋げることが出来たと感謝されていました。



板橋区産業振興公社と新年会の写真

「板橋製品技術大賞フォローアップ支援」の支援先はここ数年非常に難しい製品の支援となっており板橋チーム員の知恵を絞って対応しているが、大賞を受賞した製品以外の支援も対象として進めています。

板橋区産業振興公社とは非常に強力な関係が築けており、令和8年度も継続して契約することになりました。

19. ≪板橋区②板橋区北区ものづくり企業商談会≫

令和7年度の板橋区・北区ものづくり企業商談会は、前年と同じ北区王子駅横にある北とぴあにて10月31日(金)の開催となり、広いスペースにおける商談会開催となりました。商談テーブル28コマを全て使用し全体で200商談という非常に活気のある商談会で、4時間という短時間の効率の良い商談会であったとの評価を多く頂きました。

NPOクラブの招致企業は14社参加し合計で80の商談を行いました。招致企業の中には継続して参加している企業も多くありましたが、初参加の企業も3社あり最初は商談会の流れに戸惑った様でしたが、優良商談もあり今後の進捗を期待したいと思います。

招致企業の募集については板橋区担当チームが中心となってNPOクラブの各グループ定例会にて、商談会概要を説明し招致企業の募集を依頼すると共に、新人会員にも商談会の内容について詳細に説明を行いました。結果、Cグループ(ものづくり企業)8社(3事業所)、HCグループ(ヘルスケア関連)2社、Eグループ(金融、建設、ITその他)2社の企業を招致しました。商談結果は評価3以上が53%となり大変有意義な商談会であったと思います。

令和8年度も継続して契約することになりました。



20. ≪浜松地域販路開拓コーディネート支援プログラム≫

本事業の概要は、新技術・新製品開発及び新分野の顧客開拓に取り組む浜松地域企業を対象に開発製品・技術の完成度向上や新分野への顧客開拓等の支援を通じて、企業成長に向けた基礎作りをバックアップすることです。

支援活動の骨子は、企業の開発製品・技術の目利き評価、そのシーズに対応する協業企業紹介及び完成度促進、並びに新規顧客の開拓支援等を行います。

2025年度は、第一次公募に応じた企業2社に対して各社1回ずつ、対面でのブラッシュアップを行い、企業の強みや特長を整理した上で、ビジネスマッチングを実施しました。

マッチング先企業は、NPOクラブ会員の協力により合計7社を選定して進め、6社については訪問面接を行って内容の深い商談となりました。残りの1社については年度内のマッチングに至りませんでした。4月以降のマッチングを検討していただいています。

また、4月以降は新しい企画として、企業内展示商談会の開催を予定しています。



2.1. 《三重県（医療・福祉機器等ヘルスケア）》

2025年度も三重県（雇用経済部新産業振興課成長産業・ライフイノベーション班）から「医療・福祉機器等ヘルスケア分野への進出・事業拡大支援業務」を受託し、20社の県内企業に対して合計84回の支援をしました。

マッチング支援は、受注決定案件1件を含み7社10件が事業につながる可能性のある成果を得ることができ、県内企業から高い評価を頂きました。

支援内容は、二つの大規模展示会での三重県ブース出展企業に対するマッチング支援と大手医療機器メーカーの企業内での技術展示会の開催企画・運営及び出展企業へのマッチングの支援業務を実施しました。更に、個別相談・伴走支援等を12社に実施しました。

また、追加事業として、3月にメディカルメッセ2026（名古屋市）におけるマッチング業務も受託し、40回のマッチングを実施しました。本年度は、2025年4月初旬から2026年3月まで1年間を通じて支援業務を実施しました。

<具体的な支援内容>

1. 大規模展示会支援 「MEDTEC2025(4/9~11)」及び「メディカルクリエイションふくしま2025(10/29~/30)」の展示会での県内出展企業への伴走支援の実施
2. 大企業内展示会開催の企画運営等 （株）ニプロでの「技術展示会 in ニプロ」（2/5）の準備設営と出展企業支援
3. アドバイザーによる支援 各種相談支援、上記2件の展示会出展企業への出展準備支援やマッチング支援、展示会以外でのマッチングや、研究開発・技術・薬事・海外への販路開拓等を伴走支援
4. メディカルメッセ2026(3/16~/17) 三重県出展企業11社に対し10社の招致と40回のマッチングを行ないました。



2.2. 《三重県（自動車）》

2025年4月、三重県雇用経済部から標記事業実施の委託を受け、専任チーム6名、サポートチーム6名、管理チーム4名の体制を編成して県内自動車関連中小企業の基盤強化と展示商談会を契機とする販路開拓・拡大を目的とする下記3分野で100件を超える支援活動を進めてきました。

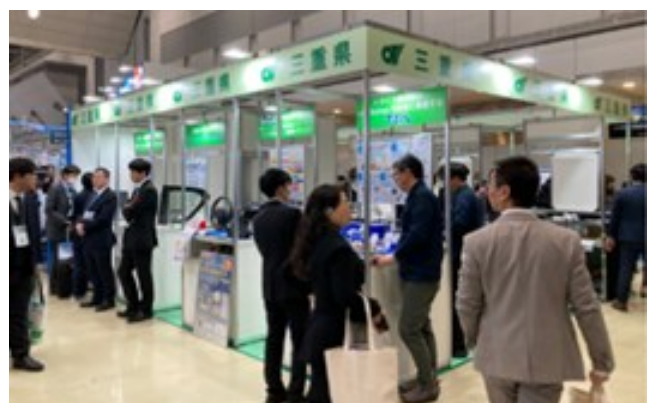
主な支援内容は展示商談会出展企業を訪問（もしくはWEB）面談し、企業カルテ・製品技術PRシート等の作成を介して各社の訴求内容を充実強化してもらう事と、展示商談会向け説明会やセミナーを開催して出展成果を高める事としました。また一部の展示商談会では出展企業の業容・希望をふまえた顧客企業をNPOクラブ会員が招致し、効果的なマッチング面談が行えるように努めました。

支援活動3分野の対象と実施結果の概要は次の通りです。

1. 2025年11月5日実施「みえ技術展示会 in ジヤトコ」支援
 - (1) 出展企業20社
 - (2) 来場者221名
(会場会社ジヤトコ社および近隣関係企業の設計開発・生産生技・調達関係者)
 - (3) 来場目的として新製品や新技術の探索、コスト低減は当然として「品質管理、生産性向上」を目的とする来場が多かったことが特徴的でした。
2. 2026年1月21～23日開催 「オートモーティブワールド」
於：東京ビッグサイト出展支援
 - (1) 出展企業8社
 - (2) 招致企業11社
 - (3) マッチング面談37件
 - (4) 面談件数の半数以上が「見積依頼」等販路開拓期待のできるものでした。
3. その他伴走支援活動
 - (1) 2025年11月27日実施「技術展示会 in デンソー」出展支援
出展企業7社のPRシートほか資料整備と展示会当日のサポート
 - (2) 上記活動(1)(2)から派生するフォローのマッチング等



みえ技術展示 in ジヤトコ
(2025.11/5 ジヤトコ社ホール)



オートモーティブワールド2026
(2026.1.21～23 東京ビッグサイト)

2.3. 《「しがモノづくり技術プロモーション事業」個別商談会》

2025年度に滋賀県庁主催で新たに開催となった個別商談会へのバイヤー企業招致支援を受託しました。

<実施概要>

滋賀県下に本社、事業所のある企業と大手中堅企業との面談をサポート

・主 催 者： 滋賀県・滋賀経済産業協会・滋賀県産業支援プラザ 他

- ・開催日：2025年10月17日
- ・会場：大阪国際ビルディング（大阪市中心区）
- ・参加バイヤー数：9社（12部門）
- ・滋賀県側企業数：17社
- ・商談数：44面談

商談会後の参加企業（滋賀県側）アンケートにて、有意義であったが61%、大変有意義であったが25%との結果となり、参加企業から一定の評価をいただきました。



24. 《大阪府信用金庫協会（信金合同BMフェア）》

昨年度に続き2025年度も大阪府信用金庫協会より展示商談会へのバイヤー企業招致、面談のセッティングの支援依頼を受託し対応しました。

1. 展示商談会概要

開催日：2025年6月10日、11日
会場：マイドームおおさか3階展示場（大阪市中心区）

出展企業数：145社
来場者数：4,458人



2. NPOクラブ支援実績

招致企業数：45社
立会面談数：193件
面談内容評価：見積依頼 15件、再度面談予定 41件、興味あり 109件
全体の85%が次に繋がる可能性のある面談となりました。

2026年度は6月9日・10日に同会場にて開催されます。引き続き当NPOクラブが対応します。



25. 《大阪信用保証協会（OSAKAビジネスフェア2025）》

第10回目の開催となる今回、大阪府内外を問わず、過去最多となる様々な分野の中小企業・小規模事業者、公的機関、支援機関、大学などの参加を得て、業種や地域の垣根を越えた活発な交流が行われました。

（開催日）11月19日（水）10:00~17:00
（場所）マイドームおおさか 2階・3階展示ホール
（出展者数）194企業・団体（内、企業は8業種・179社）

昨年に続き、(株)南海国際旅行より受託した展示会への企業招致数は、当初目標を上回り72社出展者様との面談件数は243件となりました。

加えて展示会当日、遠方の企業や諸般の事情により来場が叶わなかった企業5社を招致して、終了後にオンラインシステム（WEB）による面談を12件実施しました。具体的な商談に繋がる可能性のある面談も多くあったと感じております。

更に、NPOクラブブース（相談コーナー）に来られ、販路拡大や経営支援に係る内容を相談された出展者、来場者には後日、支援の具体的な方法を検討して対応しました。

今後も出展者や来場者のアンケート結果やNPOクラブ内で集約した意見や改善点を参考にして、尚一層満足していただけるような運営のレベルアップ、支援の向上に繋げていきたいと思っております。



26. 《きたしんビジネスマッチング2025》

今期、北おおさか信用金庫様より上記展示会商談会の発注企業招致を受託しました。

2025年11月5日・6日の2日間、マイドームおおさかにて「第27回きたしんビジネスマッチングフェア with うまいもん市」が開催されました。

本イベントは、北おおさか信用金庫様の営業エリアで活動している地域企業のビジネスチャンスの創出を支援しました。

製造業やサービス業など145社・団体が出展し、25社の発注企業を招致し、72回の面談を実施しました。前年度に比べて展示会全体の総面談数がNPOクラブの支援分により増加し、またそれまでにない企業との面談が実施できたと出展者様から感謝されたとのことでした。

次年度も受託の見込みで今年度同様の成果を期待されています。



27. 《AIR（公財尼崎地域産業活性化機構）》

第40回あまがさき産業フェア2025年度が開催されました。

キャッチフレーズ：「会いたくなる技術がいっぱい！尼崎」

（開催日）11月20日（木）～11月21日（金）

（場 所）ベイコム総合体育館（尼崎市記念公園）

（出展者数）164社・団体（174小間）



NPOクラブは、ビジネスマッチング事業の出展者・大手企業とのビジネスマッチング会を受託しました。

（1）展示会への企業招致および出展者とのマッチング

NPOクラブが招致した大手企業は15社で、マッチング企業数は57社でした。NPOクラブ会員（コーディネーター）の報告書によると「具体的に見積依頼をした」が7件、「今後も

両社が商談を継続する」47件、「情報交換のみで継続が望めない」3件との結果で、94.7%が商談に前向きで継続姿勢を示されました。

商談の場では、短時間の面談にもかかわらず、具体的な見積依頼の案件もあり、継続取引に繋げていくとの意見を多数いただき、今後につながる有意義なものであったと思います。

面談スペースが確保され、面談後も使用できて充実した打合せができました。

(2) その他：相談コーナーでの対応

来場面談者：38社・団体／47名

情報交換が12社、出展企業訪問が24社、販路先紹介依頼が2社

※ 2026年度は、11月19日(木)～20日(金)ベイコム総合体育館にて開催されます。
尼崎市市制110周年記念事業を企画しています。



28. ≪しまねものづくり企業展示会支援≫

第30回機械要素技術展〔東京〕に出展する島根県企業10社を対象として、関東エリアでの発注企業を探索して展示会の島根県ブースへの招致要請があり、企業招致活動と展示会での面談支援を行ないました。

(開催日) 7月9日(水)～11日(金) 10:00～17:00

(場所) 幕張メッセ 展示ホール

展示会期間中にNPOクラブが招致した発注企業数は、14社となりました。

島根県の出展企業とNPOクラブ招致の発注企業が実施した面談件数は、開催期間3日間で合計60面談となりました。

しまね産業振興財団とNPOクラブは2023年から商談会や展示会での販路開拓支援事業で継続的に良好なご縁を維持しています。



29. ≪STEP (ヘルシー四国販路開拓支援)≫

2024年4月度に一般財団法人四国産業・技術振興センター (STEPと略) と同法人が運営している「ヘルシー四国」<https://www.healthy-shikoku.jp/> 掲載の5-7社/年程度の販路

拡大個別マッチングの実施を契約しました。NPOクラブの一般支援委託契約をベースとした2年契約とし、最終年度の今年度は以下7社を支援しました。それぞれ右側に支援企業との初回面談と紹介したマッチング面談社数を表示します。

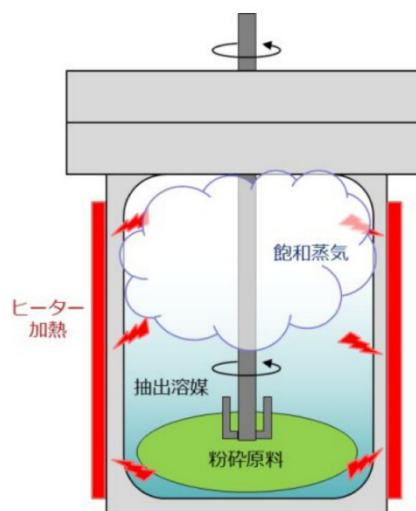
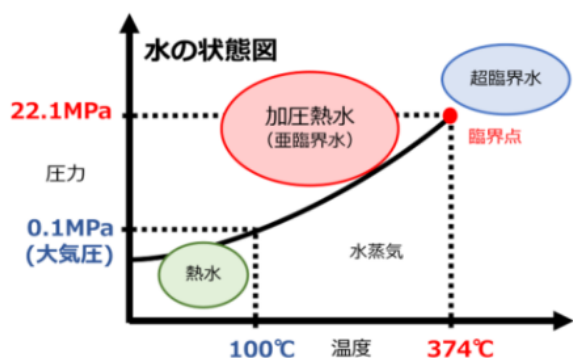
1. 大倉工業(株):「加圧熱水(亜臨界水)抽出技術」:有効成分の抽出効率を高める
初回面談1回 マッチング面談5社
2. 室戸海洋深層水(株):「にがり」:にがみを除去し豊富なミネラル成分を訴求 マッチング面談5社
3. 芳香園製薬(株):医薬品・健康食品・化粧品の受託製造および卸
初回面談1回 マッチング面談2社
4. ハイスキー食品工業(株):マンナンミール:臭いを除去した独自製法こんにやく製品
マッチング面談6社
5. 秀長水産(株):「カルペイン」:真鯛骨成分の食品素材 初回面談0回 マッチング面談2社
6. (株)PlastiFarm:「リュピア」:納豆由来のノロウイルス抗菌剤 初回面談2回 マッチング面談0社
7. 柿茶本舗(有):有機柿の葉パウダー原料、柿茶ペットボトル 初回面談1回 マッチング面談2社

以上、本年度は各支援企業との初回面談を含めて合計27回の支援を実施して完了しました。
(目標20回)

新たに2026—2027年度の2年契約が締結され、引き続き支援を継続します。
2026年以降に支援を継続・強化する以下3社を紹介します。

資料1:大倉工業株式会社:加圧熱水抽出

<https://www.healthy-shikoku.jp/coms/product/1052/4>




資料2:株式会社 PlastiFarm(プラスティファーム):リュピア

<https://www.plastifarm.co.jp/>


食中毒は主に科学的に異なる微生物により引き起こされる 超広域性の抗菌スペクトルを示すリュピアは健全な食環境の実現に役立つ表面加工素材		エタノール	次亜塩素酸	A社製品	PlastiFarm新製品*	
					リュピア 	リュピアプラス 
機能性	抗ウイルス加工	○/×	△/△	?/△	○/○	◎/◎
	抗バクテリア(細菌)加工	○	△	△	◎	◎
	防カビ(糸状菌)加工	×	△	?	◎	◎
持続性(コーティング性能)		×	×	△	◎	◎

*製品上の菌の増殖を抑制します【①ISO 21702試験(対象種:インフルエンザウイルス・コロナウイルス【エンベロープ型】/ノロウイルス代替ウイルス【非エンベロープ型】)に基づく抗ウイルス性を確認・全てのウイルスに効果があるわけではありません;②JIS L 1922試験(対象種:コロナウイルス)に基づく抗ウイルス加工繊維を確認・全てのウイルスに効果があるわけではありません;③JIS Z 2801試験(対象菌:黄色ブドウ球菌・大腸菌)に基づく抗菌性を確認・全てのバクテリア(細菌)に効果があるわけではありません;④JIS Z 1921試験(対象菌:クロコウジカビ・アオカビ・クロカビ・白黴菌)に基づく防霉性を確認・全てのカビ(糸状菌)に効果があるわけではありません;⑤CLSI M27試験(対象菌:カンジダ真菌)に基づく抗菌性を確認・全ての真菌に効果があるわけではありません】。



有機柿の葉パウダー原料供給
有機JAS認定の柿の葉パウダー

詳しく見る



柿茶ペットボトル 350ml x 24本

柿茶はこんな方におすすめ【健康志向の方・健康維持を考える方】有機栽培・オーガニックの柿茶は、添加物不使用でビタミンやポリフェノールが豊富なため、健康を意識する方に人気。また昔から親しまれている柿の葉茶の健康効果を求め、日々の健康維持を目的に飲む中高年層にも愛されています。【妊婦さん・授乳中の方】ノンカフェインで安心して飲めるため、カフェインを控えたい妊婦さんや授乳中の方から高く支持されています。【お子様を持つご家庭】カフェインゼロで飲みやすく、栄養価も高いため、赤ちゃんや小さなお子様にも安心。【ナチュラル志向の方】有機栽培・無添加・自然派の食品を求める方にとって、安心・安全な飲み物として選ばれています。

詳しく見る

30. 《かがわ産業支援財団》

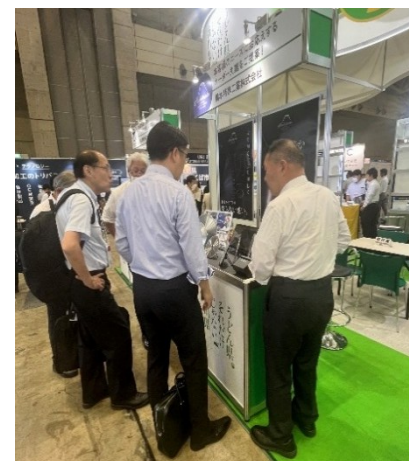
2025年度も香川県の公益財団法人である「かがわ産業支援財団」から7年目となる支援業務を受託しました。本業務は「香川県内企業と県外大手企業との商談機会の創出を効果的に行うことにより、県内企業の持続的な発展と成長を支援すること」を目的としており、今年度は、従来活動に加えて、香川県内企業から支援企業を選定（21社）し、企業訪問・社長面談・工場視察により各企業の要望や強みを把握したうえで、バイヤーである県外大手企業とのマッチング面談の促進を図りました。受託業務内容と結果は下記となります。

1. 県外大手企業の具体的な発注案件の探索及び紹介

期待値15件に対して、実績15件となり、支援企業が7割を占めました。また、成約案件4件、今後成約見込案件7件となり、成約に繋げる活動を継続して参ります。

2. 県内企業への発注に繋がる県外大手企業窓口の紹介や商談機会の創出

期待値35件に対して、実績40件となり、支援企業が6割を占めました。また、東京や福岡で開催される展示会（機械要素技術展、国際二次電池展）に出展する香川県企業に対して、大手企業の招致・面談を実施しました。



展示会「機械要素技術展」

3. 県外大手企業で開催する展示商談会の支援

期待値2件に対して、実績2件となり、2026年度開催（ダイハツ工業(株)）の目途が立ちました。また、今年度は、(株)コマツ・大阪工場で展示商談会が開催され、21の香川県企業団体が出展し、453の面談が実施され、今後に繋がる案件もあり、盛会となりました。



大手企業内展示商談会（2026.1.30 コマツ大阪工場）

以上、3業務合わせて52件の期待値に対し、57件の実績を達成しました。今後共、香川県企業の持続的な発展と成長に繋げる活動を継続して参ります。

3.1. ≪高知県企業支援案件 in 関西≫

前期に引き続き、高知県産業振興センターより首記案件を受託しました。

今期は関西エリアだけではなく、関東エリアも加わり、双方並行して活動する形になりました。関西エリアでは、高知県内の企業15社以上に対して、30件以上の商談機会（マッチング）を創出すると同時に、見積り提出10社以上を目標とする活動でした。

高知県産業振興センターは様々な分野の多くの展示会や商談会に出展しており、それらの展示会や商談会に発注企業を招致し、出展企業との面談を積極的に進めた結果、県内企業25社とのマッチングで、面談総件数は52件という結果が得られました。

11月には、高知県で最大の展示商談会である「ものメッセ高知」が開催され、発注企業2社を招致して10件の面談が実現しました。

次年度も継続して受託する見込みで、関東と関西エリアでの連携を強化した活動を目指す予定です。



ものメッセ KOCHI 2025 11/13

3.2. ≪高知県企業支援案件 in 関東≫

高知案件は、2024年度の関西グループの受注に続いて、2025年度は東京での高知県企業の支援を受注し、東京地区での展示会・商談会出展企業を中心に支援を行いました。

NEW環境展、インテリアライフプラン展、地域防災EXPO、機械要素技術展、東京インターナショナルギフト展など大規模展示会のほか、高知県だけの「ミニ商談会」も支援しました。



3.3. ≪日本食糧新聞社≫

昨年度に引き続き(株)日本食糧新聞社から受託した案件です。信用組合の取引先企業の出展は昨年の72社から78社と若干増加しました。



NPOクラブのバイヤー招致数は昨年実績10社に対し6社へと減少し、面談数も昨年実績56回に対し24回となり、昨年を大きく下回りました。全体の面談数は減少したものの、取引可能性大および可能性有が15回と前向きな内容の商談が半数以上となりました。

3.4. ≪産業交流展≫

28回目を迎える産業交流展は、首都圏の個性豊かな中小企業の優れた技術や製品を一堂に展示する国内最大級の見本市です。NPOクラブは2016年から連続10回受託しております。

1. 展示商談会の概要は下記の通りです。

(産業交流展2025 ホームページ <https://www.sangyo-koryuten.tokyo/>)

主催：東京都、東京都中小企業団体中央会 等

(ただしNPOクラブは(株)日経イベント・プロより受託)

日時：2025年11月26日(水)～11月28日(金) 東京ビックサイト西館

2. NPOクラブ支援業務は下記の通りです。

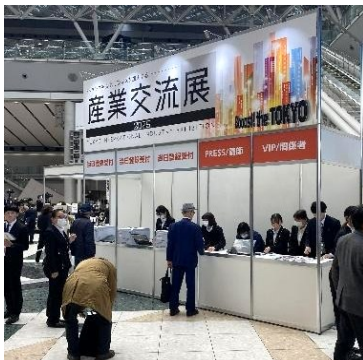
(1) 特別商談会(リアル)への企業招致は52社達成できました。

特別商談会として別途商談会場での事前アポに基づいて商談を実施、又直接出展者ブースを訪問しての商談も加え合計で232件の商談ができました。ミスマッチはほぼゼロでその場での見積もり依頼、発注もあり、活況な商談となりました。

(2) マッチングコンシェルジュ業務

3日間の期間中に会場にコンシェルジュカウンターを設置し来場者のマッチング相談にのりました。合計で61件の相談がありました。またコンシェルジュカウンターの一角にはAIによるPCコンシェルジュが設置され、AIブームに乗った新しい形のコンシェルジュとなりました。

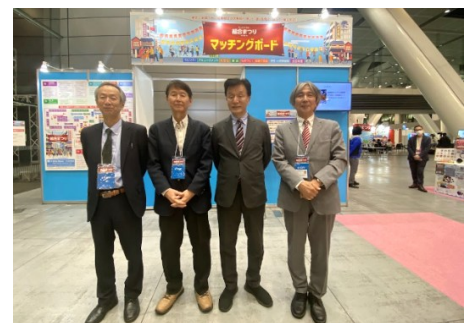
その他として出展者事前相談会及び開催日のブース診断も実施し好評を得ました。



35. <<組合祭り in 東京>>

東京都主催の「組合祭り2025」展は10月29-30日の2日間東京国際フォーラムで開催されました。

イベント会社(株)サンコミュニケーションズより、会場におけるコンシェルジュ業務の依頼を受け、2日間実施いたしました。2日間で69件の相談があり予定通り業務を遂行できました。主催者はじめ関係者より高評価を得ました。



36. <<次世代ものづくり基盤技術産業展>>

第14回の「次世代ものづくり基盤技術産業展2025」への支援を実施しました。

1. 展示会概要

主催：名古屋国際見本市委員会 (公財) 名古屋産業振興公社

日時：リアル2025年5月28日(水)、29日(木) 名古屋吹上ホール

2. NPOクラブ受託業務概要

会場でのコンシェルジュ業務を実施し、相談数は2日間で44件(28日24件、29日20件)行いました。展示会への企業誘致で7社達成し、新しい支援のメニューの一つができました。企業招致では、目標20社に対し24社のバイヤーを招致し、111件の商談を実施し

たしました。

リアル展示会場へ招致企業と訪問し商談に同席し、報告書を作成し好評を得ました。今後主催の名古屋国際見本市委員会（（公財）名古屋産業振興公社）との連携が深まりました。

また、出展者向けの事前セミナー（効果的出展のつぼ）として会員による講演を録画し、オンラインで放映しました。



37. 《東京デジコンクス》

東京都が主催するXR、メタバース、AI、Web3、などの関連業者、コンテンツ産業の展示会「TOKYO DIGICONX 2026」の支援業務を（株）日経BPより受託し、東京ビッグサイトで1月8～10日の3日間、マッチングコンシェルジュ、バイヤー企業招致及び商談会（ブース訪問での商談）を実施し好評価を得ました。

バイヤー企業は26社を招致し、出展者との160商談を実施しました。その中の150商談で、今後も商談を継続すべく、相互に企業を訪問するなどの具体的なアクションが確認され大成功の商談会となりました。

バイヤーとして招致した企業の商談には招致を担当した経営支援NPOクラブ会員が同席し、実のある商談になるようにサポートし、バイヤー招致企業別の商談報告書を作成しました。



3月にCグループ（機械、電機）と合同での定例会を開催しました。

結果が良好なので今後はこの形で中小企業への支援活動の強化を進めてまいります。

4 3. 《Cグループ》（機械、電機）

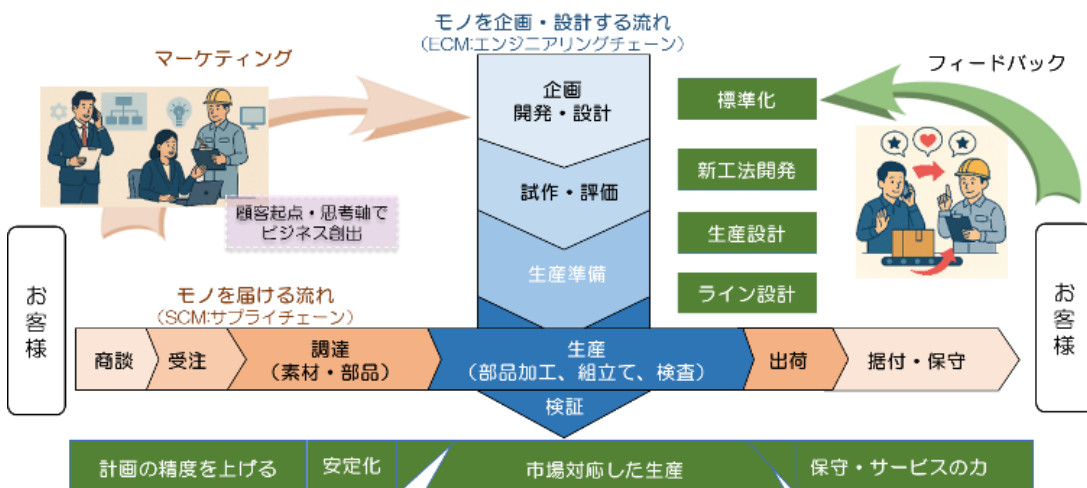
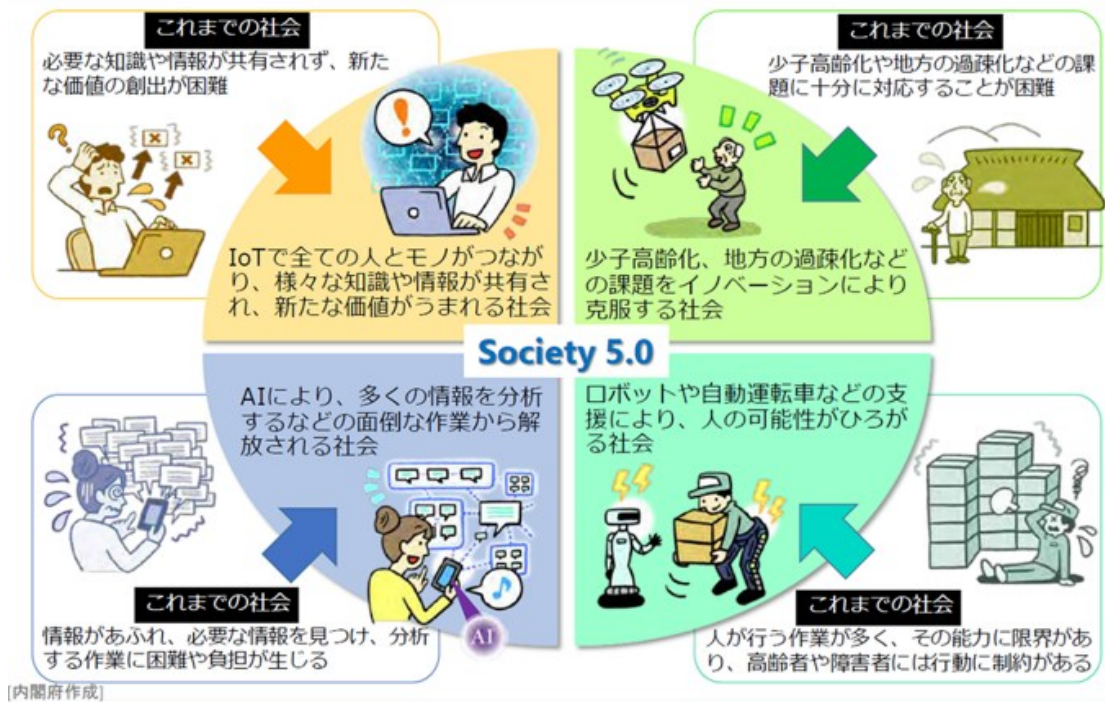
Cグループは、機械及び電機関係のメンバー約129名からなり、中小企業支援活動を行っています。毎月のリーダー会議では、グループの懸案及び課題事項を討議し、第4金曜日に開催する定例会では課題の共有化を図っています。

ものづくり関係は、AI、半導体、ロボット等を中心に新技術に関する動きが活発であり、関連展示会参加、業界情報等の収集と情報共有を促進しています。

地域案件は、マッチング支援活動だけでなく、生産現場改善、成長産業参入促進、自動車等伴走支援活動案件もあり、支援に際しては、各地の産業支援機関及び地域案件実行チームと連携し、各分野の専門家からなるチームを編成し複眼的視点で活動を実施しています。

特定・一般支援企業は、30社を担当し夫々のリーダーを中心に、支援活動を行っています。毎月の定例会では、各社よりプレゼンテーションを戴き相互交流を実施しています。支援内容は、販売力強化支援など、活動体制等に合わせ実施しています。

(Society5.0)出所:内閣府(ものづくりライフサイクル)



4.4. 《ヘルスケアグループ》(医療・介護)

ヘルスケアグループの2025年度における活動は、以下の3つの観点から87名のメンバーが活発に活動しました。

近年の超高齢化社会において、健康長寿社会の形成を目指し、ヘルスケア分野での技術革新が重要になってきています。自動車業界等の異分野業種からも、従来の技術を生かしてヘルスケア分野への進出を希望する企業が増えています。このような世の中のニーズに応えるべく、経験・知見・人的ネットワークの豊富なメンバーを活用して活動しています。

2024年度の経済産業省の『中堅・中核企業のプラットフォーム構築による新事業展開支援「ヘルスケア分野」事業』で連携したいくつかの中堅・中核企業との連携・支援を、今年度も継続して行うことで、支援対象企業を拡げることができました。従来の中小企業のみならず、支援対象企業をより大きな中堅・中核企業に拡大してきたことで、当グループの支援方法や知見・技術も進歩してきました。

過去数年間の主な支援実績である三重県より受託した「医療・福祉機器等の製品化支援」や、秋田県より受託した「医療機器サプライチェーン再構築事業」の確実な進展に加え、これらの実績を踏まえた秋田県からの「社会課題型製品開発事業」等の新規案件も受託することができました。

このように、新たな支援への要望に対しては、参入から販路拡大まで多面的な対応が可能となるように、メンバーの人脈を活用した企業招致活動、支援企業訪問（オンライン面談を含む）や販路先企業とのマッチング、大学や公的機関を含む連携支援機関とのマッチングを積極的に実施しています。

展示会やオンライン商談等の支援として、数多くのヘルスケア関連企業を招致しました。更に、メンバーによるマッチング情報の共有化や、グループメンバーへの各種外部機関からの積極的な情報収集に努め、メンバーの研鑽を実施すると共に、メンバーの意識向上に関わるディスカッション等も行っています。



4.5. 《Eグループ》(ICT、その他)

Eグループは、食品関係（Aグループ）、化学関係（Bグループ）、ものづくり関係（Cグループ）、ヘルスケア関係（HCグループ）以外のその他ジャンル（IT、建築、サービスなど）をメンバー131名で活動しています。

2025年度の活動は、定例会を中心として案件実行チームの獲得した案件のマッチングと毎月1社以上の「企業プレゼン」を実施し、新製品情報、新サービス情報をメンバーに提供し毎月の定例会を有効に活用しています。

また定例会終了後の「懇親会」も多くのメンバーに参加していただき、和気あいあいとした楽しい活動を企画しています。



46. 《関西グループ》

関西グループは、2014年5月に5名の会員で発足し、その後徐々に会員数が増え2026年3月末現在で、関西地区在住48名、関東他遠隔地在住9名の計57名の組織となりました。

日常の活動としては、毎月最低1回の定例連絡会議を開催し、その中で特定支援会員・一般支援契約企業からのプレゼンテーションや活動報告、確認等を行っています。

関西グループの特定支援会員は17社、一般支援企業は28社となり、定例会議での企業プレゼン等により情報共有を行い、それぞれの企業担当リーダーを中心に年間91回の支援面談、マッチング活動を実施しました。

本年度は、滋賀県、大阪府信用金庫協会、大阪信用保証協会、北おおさか信用金庫、尼崎地域産業活性化機構、しまね産業振興財団、かがわ産業支援財団、高知県産業振興センター他、近畿高エネルギー加工技術研究所とこうべ産業・就労支援財団を含め10法人から委託を受け、関西以西の地域で全分野の企業に対し、マッチング実現に向け活動を展開してまいりました。

また次年度に向けて新規案件、新事業に取り組み中ですが、引き続きNPOクラブの強みを活かした展開を図ってまいります。

社会経済は今、大きな変革の時代を迎えており、中小企業を取り巻く環境も日々変化し、我々に求められる役割も広がっています。こうした時代の変化を的確に捉え、その期待に応え続けられる関西グループでありたいと願っています。



47. 《次世代育成支援グループ》

次世代育成支援グループの重点課題として取組んでいる中小企業人材育成チームでは、企業向けのオーダーメイドの教育・研修プログラム・ソリューションサイト <https://btob.website/NK/> を開設しました。

学生向けの取り組みとして、大学生と高校生が有機的に結びついて企業研究を行う高崎経済大

と同附属高校のコラボゼミ企業研究の一環として行う企業訪問6社を幹旋。

科学と社会をつなぐイベント・サイエンスアゴラは『人生100年時代、健康維持する科学技術を語る』をテーマに7名の会員が2日間にわたりゼミセミナー形式で講演を行いました。また駒澤大学で学生が社会人になってビジネスで意思決定をする時に思考の軸として役立つ「経営理論」と「生きたビジネス」を同時に学ぶ「場」を作るのを目的とした「ビジネス探求塾」を6回実施しました。

そのほか東京聖栄大学、東京未来大学、高崎経済大学附属高校にて講演を行い、新たな案件として都立農産高校にて模擬面接の面接官、葛飾商業高校と埼玉大学附属小学校での出前授業を行いました。

また、会員の自己啓発の場としてのNPOサロンは4回開催しました。



サイエンスアゴラ・セミナー「脳を化学する」



駒澤大学「ビジネス探求塾」

＜研究会・タスクチームの活動報告＞

48. 《新素材研究会》

2025年度は11名のメンバーで活動し毎月「新素材・新工法」に関する情報を互いに収集し発表しました。10回のテーマ発表会で19件の発表がありました。発表内容はプラスチック、金属などの新素材や新工法を用いた新製品について多岐にわたるテーマでした。これらの情報をNPO会員の皆様が活用できればと考えます。

また今年度は素材（プラスチック、金属など）がどういったものであるかを一覧表にまとめ直しました。素材などでお悩みがあればこの一覧表を参考にいただければと思います。

2026年度は新素材や新工法についての情報がNPO会員の皆様や支援企業の皆様に具体的に役立つ情報にするためにニーズにマッチした情報の収集を計っていき発表していきたいと考えています。

皆様の新素材・新工法に関するニーズ情報をお待ちします。

49. 《エネルギー産業研究会》

1. 大きな転機を迎えた世界のエネルギー情勢

「COP21パリ協定」の枠組みが崩れかけようとしています。この1年でそれまでの国際的秩序であった体制が黒海周辺の紛争や中近東情勢の混乱で結束力が低下、さらに米国内の分断等により、基本的価値観の統一性が弱体化したといえる状況になっています。

この影響を最も大きく受けた分野の一つが「エネルギー問題」です。エネルギー産業研究会では、この対応を念頭に置きつつ2025年度の活動を遂行しました。

2. 活動重点項目

(1) ペロブスカイト太陽電池の実現に向けて

日本の技術がベースです。「変換効率がよく、軽くて、薄くて曲がる」長所を持っていますが、耐久性と大面積化が実用化のネックになっています。評価設備や製造設備の要素技術開発に数多くの中小企業が活躍しています

(2) 全固体電池の開発

日本は、硫化物系、セラミックス系で世界をリードしていますが、いよいよ実用化レベルに近づいてきました。固体間の密着度維持と厳重な湿度管理を克服できるかがポイント。この量産化技術の開発に中小企業が関与しています。

(3) 洋上風力

風力発電設備本体は、海外メーカーが引き受けていますが、設置工事、受変電、設備および長期間にわたる保守は日本企業の範疇です。この研究会でも多くの企業とコンタクトし、参入支援を行いました。

(4) 水素社会の構築

グリーン水素に関して、水素の生成だけでなく運搬、貯蔵、CCUSについて調査を進めました。また官庁、自治体組織との情報交換も積極的に実施しました。

(5) 原子力、核融合

2025年は、世界各国で原子力回帰の動きが出てきたことと核融合開発に豊富な資金を調達したスタートアップ企業が活を始めたことです。

(6) 支援活動

2025年も研究会の活動を通じて、あるいはほかの組織からの要請を受けて開発支援、市場調査、マッチング活動などを積極的に行いました。



バイオマス施設訪問



原子力関係企業訪問



水素生成—燃料電池活用調査



水素吸蔵合金交換の実際

連絡先：エネルギー産業研究会 <energy@ka-npom.com>

50. 《中小企業経営強化支援チーム》

1. NPO討論会

NPO討論会は、会員が現場を離れても最新の社会環境変化や技術動向を認識し、支援の質を向上させるための「相互研鑽」の場です。2019年の第1回から2026年の第14回まで開催し、毎回約60名が参加しています。

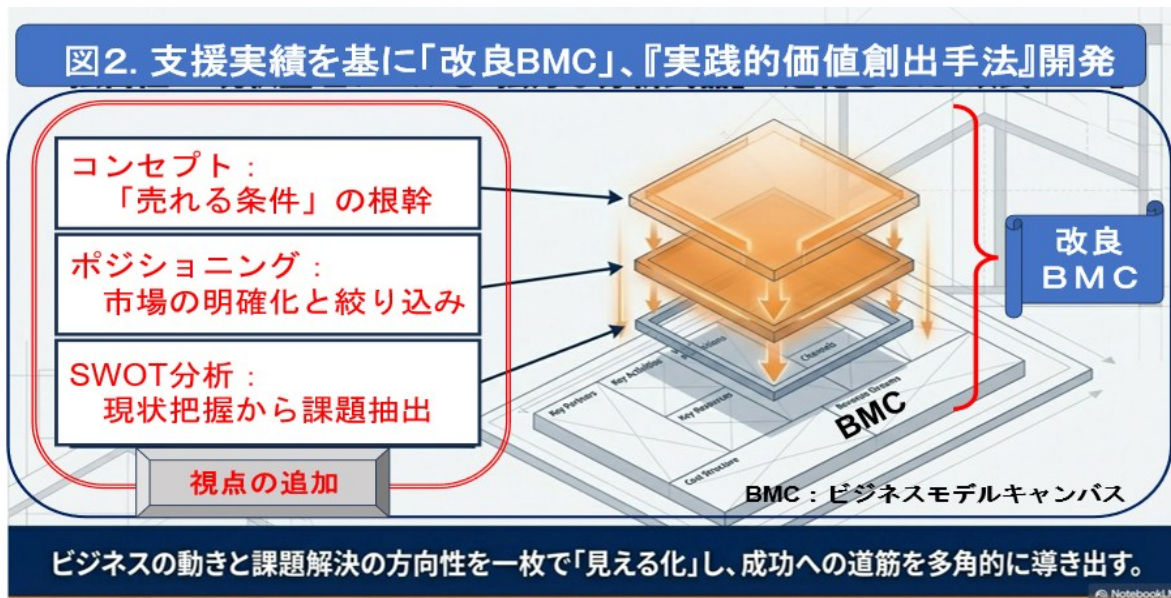
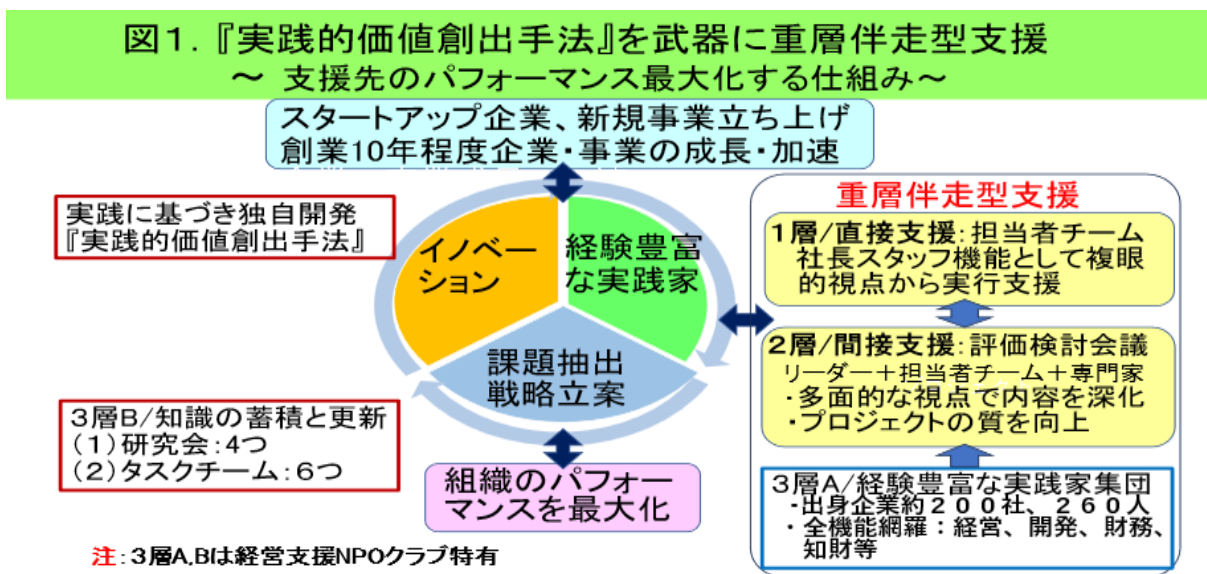
今回（2026年1月29日）中小企業経営強化支援チームはメインテーマ「マッチングの付加価値化（販路開拓支援）」について実施して活発な議論が行われました。

2. 経営強化伴走型支援

本活動は、中小企業の事業戦略策定から実行計画までを組織的に支える支援です
 経済産業省の初仕事（2014年）での経営・技術評価は、SWOT分析手法を一体化した経営診断を実施したことです。

また仙台市「ものづくり実現可能性調査」（2018年）では事業方向性の明確化に重点を置きました。さらにイノベーション創出に関わる科学的アプローチ等、実践に基づき考案した「実践的価値創出手法」を確立しました。

特長は単なる助言に留まらず、実効性の高い「伴走」を重視して、新規事業の立ち上げや事業強化等に役立てており、補助金獲得や新規事業化などの具体的成果に繋がっています。独自開発メソッド、支援事例を「スタートアップ育成の手引き」（私本）にまとめて活用しています。



5 1. 《環境事業支援研究会》

1. 環境に関係するISO対応等のニーズに対応すべく、NPOクラブの新入会員の中から環境関係対応が出来そうな3名の会員に、自分の経歴・得意な環境分野につきプレゼンをしてもらいました。
2. 環境関連セミナー(つくば発ベンチャーシーズ・東北大学・慶応大学等の7件)に参加し、当日の様子を

研究会で共有しました

- 研究会メンバーが定例会で、地熱発電・欧州REACH規制・自動車リサイクル・ケミカルリサイクル・化学会社のCO2削減活動現況、等の11件のテーマについてプレゼンを行い、意見交換をしました。
- 友好団体の一般社団法人ダイレクトフォースと交流会を行い、互いの活動紹介と参加者の自己紹介を行いました。
- 次年度の研究会活動については、支援企業を2-3社特定して支援の深堀をする方針とします。今後、具体的な方策を深めて取り組んでいきます。

5.2. 《デジタル・イノベーション支援チーム》

「デジタル・イノベーション支援チーム（DIT）」は、デジタル技術を活用し、経営力を強化したい、課題を解決したいと考えている中小企業、特に小規模事業者の経営者を支援することを中心に活動しています。

2021年～2022年は、「意向調査」活動を通じデジタル化の相談を戴いた企業を中心に、ヒアリング・現地調査から実情に沿った提案をしました。2023年～2024年は一歩踏み込み、デジタル化による気づきや、課題や環境などについてヒアリング及び提案を行いました。

2025年度は、生成AI・フィジカルAIの急速な成長、開発ツールの発展等の背景から、求められる伴走支援の有り方の検討と、昨年度策定「ベンダー紹介制度」の拡充と使いやすさの検討及びメニュー拡充の推進を実施しました。

「デジタルリテラシー講座」（3回実施）では、生成AIの活用事例紹介に加え、登録ベンダー様からも実践的事例を紹介して戴きました。ベンダー様講座を通じ引合せ案件等へつなげることができました。

デジタル化は、AIを中心に急速に進化している事もあり、DIT紹介パンフレットを見直し一新しました。引き続き内容を充実させ、具体的な支援活動に繋げて行く予定です。ご要望等ございましたお気軽にご相談下さい。

新パンフレット：DITと登録ベンダーの紹介

あなたの会社の「困った」を、デジタルで「できた」へ。
経営支援NPOクラブが支援します。

経営支援NPOクラブは、中立的な立場から企業様の経営課題解決を支援する非営利団体です。私たちは特定のデジタル製品やサービスの提供ではなく、あくまで企業様の経営にとって本当に必要なデジタル化とは何かを、対話を通して共に考えます。貴社の成長が地域社会の活力となるよう、柔軟な支援を行います。

経営支援NPOクラブの支援概要

- 企業課題の見える化支援
- 課題を解決するデジタルシステムの紹介
- システム導入、立上プロセスの支援

紙のデータを簡単に整理したい

AIドキュメント管理 株式会社アルパカ
紙まめ、異人化業務をスキミング、AIで自動整理/履歴解決

次書管理アプリ
ドキュバカ!

AIが自動データベース化

デジタルを活用して売上をアップしたい

デジタルマーケティング 東海ビジネスサービス株式会社
SEO対策/ SNS運用/ Web広告運用/ YouTubeチャンネル運用など、長年蓄積してきたIT知見と経験を活用してWebサイトへのアクセスを強化し、集客や売上課題の解決をサポート

集客に悩む課題 → 課題解決

社員教育を充実したい

定額制オンライン研修サービス ユーキャン株式会社
ビデオ・ライブは一人ひとりに寄り添った教育サービスを提供

定額制オンライン研修サービス
ビデオレボダイ

ホームページのアクセスを増やしたい

WEB解析 デザイン情報株式会社 DIINC.
ホームページの効果を最大化する「解析ちゃん診断レポート」
WEBの専門家が多量にレポートのAI解析を実施
現状の問題点を明確にし、具体的な改善策を提案
ビジネスの成長を加速させる、レポート&コンサルテイングサービス

解析ちゃん
WEB ANALYTICS

AIを社内で活用したい

AIシステム Google Gemini
Google AI モデル Gemini の活用支援

現場を3Dデータ化して管理したい

デジタルツインサービス 野原グループ株式会社
Matterportは3Dスキャンでリアルなデジタルツインを作成可能
一回の撮影でいつでも自身のVRコックピットから現場訪問可能

経営支援NPOクラブ 〒101-0047 東京都千代田区神田1-5-10 内神田TKビル5階

53. 《自然大災害復興支援プロジェクトチーム》

～「東北コットンプロジェクト・綿花収穫活動参加について」

NPOクラブの自然災害復興支援活動は、2011年6月から始まりました。東日本大震災で被害を受けた福島県を中心に、「福幸プロジェクト」と銘打った支援活動でした。

主に、風評被害をうけた農産品の販路開拓、二本松若手有機農家向け支援、土湯温泉支援・再生エネルギーフォーラムの開催など、その他廃炉関連産業参入企業支援等を長年にわたり、活動を行ってきております。

2023年からは、みやぎ東松島市での綿花定植、収穫活動への支援活動を行ってしております。当地は、東日本大震災による大津波で稲作が困難になった農地に綿花を栽培「津波被災地農地に希望の花を咲かそう！」と、2011年6月に東北コットンプロジェクトとして支援が始まりました。

当初、日本北限の栽培での寒さや害虫などの被害甚大で栽培が難航、研究に研究を重ね、その後、現在の東松島市赤坂観光農園に栽培を移して、復興の綿花、被災地に咲いて15周年目を迎えました。

2025年栽培規模は、面積18,000坪に4,500株苗と日本最大の圃場となっております。自分で植えた苗を、摘む喜び、そして感謝していただける活動です。

NPOは、被災地をただ弱者と見て物質を送り続けるのではなく、ひたすらに寄り添い、被災地のコミュニティが強靱に生きる力を、NPOができることをできる範囲で支援するスタンスで、本年も定植活動、収穫活動に参加、ボランティア活動を行ってきております。



綿摘み収穫祭・11月下旬
(ボランティアによる綿摘み作業と収穫感謝祭)

54. 《起業家支援チーム》

4月から2025年度無償支援（4回目）募集を行い、6月に5社のオンライン面談を経て2社が選ばれました。7月に企業面談を実施して支援内容等の確認した結果、1社が辞退したため、福祉関係の1社を集中して支援することとなりました。

8月からヘルスケアグループ、Eグループの定例会でプレゼンを実施、大手広告代理店からHPの広告収入等に結びつく検索対策等についてアドバイスを受ける機会を提供、段ボール関係企業、ホテル関係の紹介等を行いました。支援企業には「通常では受けることのできない支援を受けられた」と大変喜んで頂き、一般支援契約へとつながりました。

2026年度無償支援（5回目）応募は、辞退防止と十分な支援期間確保を目的として、4月支援スタートの体制へと組み替えました。採点はNPOクラブの支援可能性に重点を置き、年末より応募企業推薦依頼を実施、年末年始に各グループ定例会で募集依頼、3月に5社のオンライン面談実施、2社の無償支援が決定し、スケジュール調整を進めています。

応募頂いた企業については、どの企業も支援したいと思える内容であったので、引き続き、担当者がコンタクトを取っていく予定です。

その他通常はオンライン定例会ですが、新会員も迎えて対リアル懇親会も開催しました。

55. 《人材不足対策支援チーム》

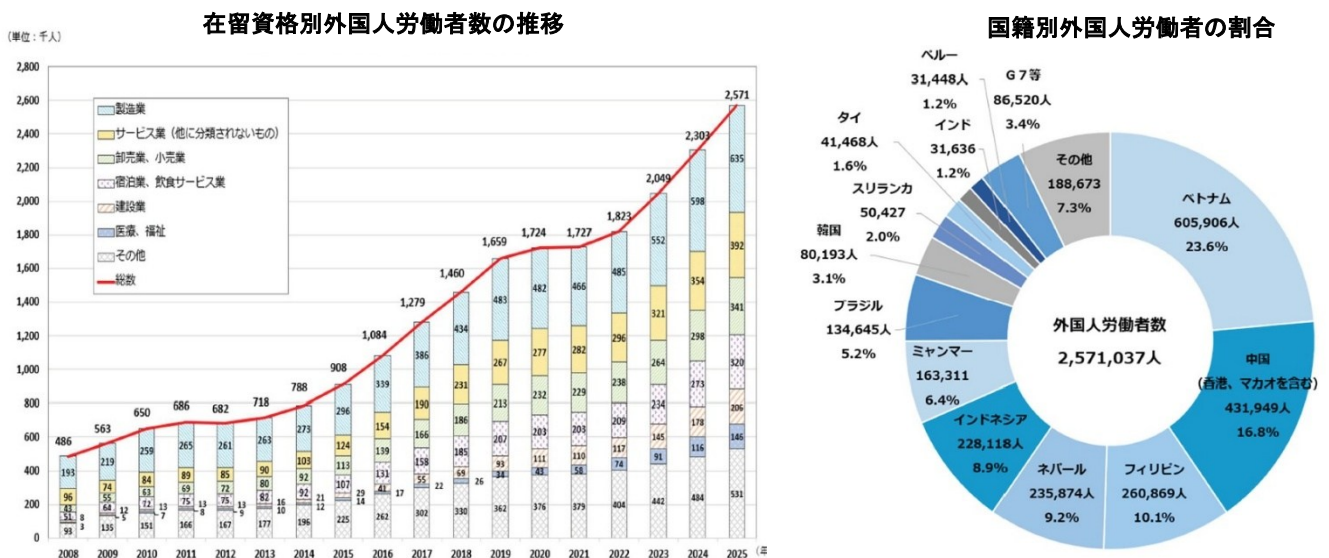
「人材不足対策支援チーム」は2024年4月より、中期活動方針の重点課題の1つとして活動を開始しました。この2年間の活動で実績も少しずつ上がり、NPOクラブにとって注目すべき活動になりつつあります。

現在国の制度で認めた「外国人材」は中進国（主にアジア）の若者が中心で、外国人なら誰でも雇用できる訳ではなく、業務に合った在留資格が必要です。

あらゆる産業で「人材不足」が年々深刻になっていますが、外国人雇用に関し、政治的・社会的な問題の懸念で、なかなか踏み切れない企業や、外国人をどのように採用すればいいのか分からない企業もまだまだ多いようです。

2026年の1月には会員向けに中期活動方針の発表を行ない、3月には特定支援会員の皆様にもWEBセミナーを実施しました。

国内の人材不足はまだまだ続くと思われまますので、これからは実績のあるスーパー・ホテル業の他に、製造業・建設業・運輸業・流通業・介護福祉・IT業界など幅広く、かつ高度人材の紹介にも力を入れていきます。



資料出所: 厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況のまとめ(R7年10月末時点)
<https://www.mhlw.go.jp/content/11655000/001646130.pdf>

56. 《国内・海外ポータルサイトチーム》

2025年度の企業製品紹介サイトでは、国内の会社26社、製品35製品、また海外の会社5社、製品5製品が掲載されています。

今年度は新たに特定支援会員の「ヴェリタス・キャピタル・パートナー」様・「朝日音響」様の紹介ページを開始しました。また、「株式会社アクト」様の製品紹介ページをリニューアルしております。ぜひ一度ご一読いただければ幸いです。

- ・「ヴェリタス・キャピタル・パートナー」様製品
 - ① [オンラインM&A \(中小規模\)](#)、② [M&Aアドバイザー](#)、③ [長期投資](#)
- ・「朝日音響」様製品 [産業用の無線操縦装置](#)
- ・「株式会社アクト」様製品 [アルカリ中和剤「融夢」](#) [無機凝集剤「水夢」](#)

掲載されている企業には、Googleアナリティクスを使った掲載ページのアクセス分析レポートを半期に1度お送りしております。本レポートが営業活動の一助になることを期待しています。

皆様の会社や製品のPR手段として、新規掲載のご検討をお願いいたします。

57. 《子ども食堂支援チーム》

NPOクラブは、「楽膳倶楽部子ども食堂」への支援活動を2022年5月から開始し、4年が経過しました。楽膳倶楽部は東京都練馬区光が丘で地域の高齢者や働くママさんたちに対して、男の料理教室や「みんなでばんごはん」等食の支援を中心に活動しています。

その一環として、毎月第一日曜日に子ども食堂を開催しています。以前は楽膳倶楽部旭町ハウスでみんなが集って食事をしていましたが、コロナ禍以降お弁当配布形式に変更しています。

NPOクラブは食品ロス削減の観点から、各メーカーの協力の下、企業で処分される冷凍食品や水産加工品等のサンプルを無償で提供いただくとともに、米についてはNPOクラブで調達し、子ども食堂を支援しています。

一昨年から米価格の高騰が続いていますが割安な価格でご協力いただいています。当NPOクラブ以外に子ども食堂支援センター「むすびえ」、練馬区清掃組合や板橋区等からも寄付をいただいております。子ども食堂来場者へのお持ち帰り品として提供しています。

楽膳倶楽部は様々な地域に根ざした取り組みを行っていますが、子ども食堂の支援を含め、楽膳倶楽部との取り組みを継続していきたく思います。

Googleフォームから！
一戸を宛み込み、専用フォームからお申込みください
切 2月26日(木)12時まで
※定例に準じ次表、締め切らせていただきます

場所: 楽膳倶楽部 旭町ハウス
練馬区旭町1-31-4
お問い合わせ: NPO法人楽膳倶楽部
TEL: 03-6915-6300
MAIL: rakuren@tokyo.nifty.jp



58. 《特定支援会員連携チーム》

1. NPOクラブの会員制度の一つであります「特定支援会員」58社（2026年3月現在）へのサービス向上と連携強化を目指して、2020年12月に活動を開始しました。
2. 特定支援会員契約による販路開拓支援を中心とする支援活動とは別に、無償で下記のサービスを行っております。

(1) 特定支援会員向けWebセミナー 隔月1回開催しています。

2025年4月以降に実施しましたセミナーは下記の通りです。

- | | | |
|---------|---|-------|
| 1) 第48回 | 5月「特許取得・発明秘匿の見込みをつける勘所」 | 北村光司 |
| 2) 第49回 | 7月「生成AIの世界へようこそ」AIコーディネーター | 高橋周平様 |
| 3) 第50回 | 11月「自動車産業が期待している技術」 | 長谷川聡 |
| 4) 第51回 | 休講 | |
| 5) 第52回 | 1月「洗浄技術であらゆるモノの美しさと寿命を守る」
株式会社システムブレイン 代表取締役社長 | 神田智一様 |
| 6) 第53回 | 3月「人材不足でお困りではありませんか？」 | 井料敏和 |

(2) 「第2回特定支援会員交流会」 2025年4月21日

- ・特定支援会員企業を中心に23社28名が参加しました。NPOクラブからは、酒井理事長以下34名が参加しました。

参加企業PRスピーチと懇談・懇親会で大いに交流を深めました。

- ・ 東京大学生産技術研究所 准教授山川雄司氏の講演を行い大変好評でした。
演題：「柔軟ロボティクスとその応用」



(3) 「第1回工場見学会」 2026年3月17日

- ・ 東京都大田区の「テクノコアOTA」に所在する成長企業2社の工場を見学しました。
 - ① 株式会社クライム・ワークス (特定支援会員)
 - ② 株式会社リプス・ワークス
- ・ 9社12名の方が参加されNPOクラブ正会員12名と共に、詳細な説明をいただき大変参考になる見学会でした。



3. 更なるサービス向上と連携強化に向けまして、特定支援会員様のご要望を伺い新たな施策の検討を行ってまいります。

59. <<健康経営チーム>>

本年度発足した「健康経営タスクチーム」を紹介します。

健康経営は10年程前に経産省が「健康経営優良法人認定制度」を創設し、一般の民間企業への取り組みを推進するようになりました。企業内の生産性の向上、企業認知の向上、従業員のモチベーションの向上など幅広い有意点があります。

健康経営の一つの概念に、アブセンティーズムとプレゼンティーズムというものがあります。アブセンティーズムとは病欠、欠勤による健康関連コストとしての損失を指します。プレゼンティーズムは、会社に出勤しているが何らかの健康上の問題に困ってパフォーマンスが低下している状態のことをいいます。慢性疲労、腰痛、頭痛、花粉症、メンタル不調などが入ります。

健康関連コストでは、プレゼンティーズムがアブセンティーズムの1.7倍とのデータもあります。又、健康経営につながるキーワードの一つにワークエンゲイジメントの考え方があります。ワークエンゲイジメントの高い状態とは、仕事に活力があり、熱意を持って没頭している状態ともいえます。モチベーションの高い状態ですね。

健康経営を通じて、プレゼンティーズムの低い状況、ワークエンゲイジメントの高い状態を維持していきたいものです。詳しくは、当NPOクラブにお問い合わせください。

60. <<広報委員会>>

NPOクラブの組織図において、理事会が「意思決定機関」、企画委員会が理事会の委託を受け「発案提言」し、業務推進委員会が案件「運営の実行」、広報委員会が「情報発信」、事務局が会員の窓口全般的に「運営」する、という4つの柱の一つとして位置付けられています。

広報委員会の「役割」として、内部への情報の共有化とともに外部への発信も重要となりますので、HPの充実、ニュースレターの発信、メルマガ通信の発行を定期的に遂行していきます。

現在メルマガ通信については隔月ごとに年6回発行しています。メルマガ編集メンバーは4名で交代して担当しています。

この発行により、HPの「最新情報」や「会員活動の最新情報」もタイムリーに更新できるようになりました。登録者数も一時は1800名位まで落ち込みましたが、会員の方に個別にお願いし、この3月には4194名に配信できました。会員約250名と合わせると4400名を超えるようになりました。

また、「NPOクラブの会員活動紹介」のパンフレットも好評でしたので、ニュースレターの5月発行後に見直しを行い、毎年改訂していく予定です。これをベースに事務局でもデータを管理して、印刷物以外でも、担当案件ごとに最新情報をお知らせ出来るようにしました。

（経営支援NPOクラブのロゴについて）

経営支援NPOクラブのロゴマークについては、2010年に作成され、2016年に商標登録されました。本年に更新時期を迎えるにあたり、10年間の登録更新手続きを行ないました。

ここ数年多くの新入会員が入会していますので、会員の中にもこのロゴマークの意味や由来の問い合わせが有りましたので改めてお知らせいたしました。

<ロゴマーク>



マークの形は、人の手（五本の指）を表しています。5本の指それぞれの役割・個性があることと、5本すべてが協調性を持って、ひとつのことを成し遂げるとき、そのバランスにより大きな成果を生む。手から手へ、ぬくもりある開拓精神を象徴しています。

手はものを掴み、握り、力強さも発揮します。チームにおいても異なる強みを持つメンバーがバランス良く調和し、一人では成し遂げない大きな成果を生むこととなります。

2025（令和7）年度の活動概要 《事務局報告》

1. 公的機関等からの受託契約実績(契約日順)

契約先	内容	契約日
公益財団法人板橋区産業振興公社	令和7年度ビジネスチャンス開拓支援事業業務委託	令和 7.04.01
公益財団法人かがわ産業支援財団	令和7年度発注開拓支援事業に係る商談機会創出等業務委託	令和 7.04.01
三重県	令和7年度医療・福祉機器等ヘルスケア分野への進出・事業拡大支援業務	令和 7.04.01
一般社団法人滋賀経済産業協会	「しがモノづくり技術プロモーション事業」に係る業務の委託	令和 7.04.01
公益財団法人高知県産業振興センター	令和7年度ものづくり外商促進事業に係る商談機会創出等業務	令和 7.04.01
公益財団法人板橋区産業振興公社	令和7年度板橋区・北区ものづくり企業商談会発注企業招致業務委託	令和 7.04.04
栃木県	「令和7年度とちぎ技術展示商談会 in NISSAN」実施業務委託	令和 7.04.11
三重県	県内自動車関連中小企業等マッチング支援業務	令和 7.04.21
株式会社地域計画建築研究所	令和7年度グリーンビジネス戦略構築・事業化支援業務に係る「専門家による川下企業とのマッチング支援等」業務委託	令和 7.05.01
公益財団法人しまね産業振興財団	第30回機械要素技術展[東京]における発注企業開拓活動業務の委託	令和 7.05.09
秋田県	サプライチェーン参入支援事業業務業務	令和 7.05.26
公益財団法人みやぎ産業振興機構	生産現場改善強化支援事業専門家派遣型業務委託	令和 7.06.13
公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構	販路拡大・新規事業展開に係るマッチング支援業務委託	令和 7.06.16
秋田県	社会課題型商品開発支援業務委託	令和 7.07.07
三重県	メディカルメッセ2026における三重県ブース出展企業に対するマッチング支援等業務	令和 7.12.19

2. 2025年度支援実績(件数)

マッチング①	面談②	支援企業数	企業招致数	講演・研修	市場調査	①+②計	2025年度実績
1,905	1,021	1,657	907	106	0	2,926	3,086

2024年度比 △160

3. 2025年度4月以降の理事会での主な討議事項（対外事項のみ）

4月	☆社会貢献事業（研究会、タスクチーム）の再構成について（松本理事）
	☆三重県「医療・福祉機器等ヘルスケア分野への進出・事業拡大支援業務委託」および「県内自動車関連中小企業等マッチング支援等業務委託」内規（案）について（松本理事、長会員）
6月	☆秋田県「サプライチェーン参入支援事業業務委託」を実施するにあたっての内規案について（高尾会員）
	☆（株）ミューラボおよび（株）U-MAPの特別支援制度審査委員会審査結果報告（松本理事）
7月	☆生成AI利活用についてのガイドライン（近藤理事）
	☆令和7年度経産省中堅・中核企業補助金受託企業について（近藤理事）
	☆広報ホームページ、パンフレットの更新について（井料理事）
	☆自然大災害復興支援におけるPJ案件について（赤坂農園）（指田理事）
8月	☆秋田県令和7年度社会課題型商品開発支援事業の内規について（丸田会員）
9月	☆令和7年度経産省中堅・中核事業について（近藤理事）
12月	☆データベースのデジタル化とAIによる活用について（近藤理事）
1月	☆健康経営タスクチーム発足について（嶋宮会員、佐藤（照）会員）
2月	☆特定支援会員連携チーム活動の課題について（近藤理事）
3月	☆令和7年度「メディカルメッセ2026における三重県ブース出展企業に対するマッチング支援等業務委託」に係る活動に関する内規（松本理事）
	☆経営支援NPOクラブロゴマークの商標登録更新（江刺事務局長補佐）

4. 会員の現況（2026年4月末現在）

正会員 265名
 賛助会員 5社
 特定支援会員 61社

広報委員会 ニュースレター編集担当

(編集後記)

広報委員会では、隔月発行の「メルマガ通信」と年一回発行の、この「ニュースレター」が内外に対する大きな情報誌となっています。公的機関や金融機関、特定支援会員や支援先企業の皆様にご覧いただいておりますが、2025年度版も会員の案件チームリーダーやグループリーダーに原稿を依頼して出来上がりました。

これが発行されることによって、一昨年改定したHPにも最新情報や活動報告にリンクして、タイムリーな情報を発信出来るようになりました。

また、この「ニュースレター」を基に「経営支援NPOクラブ活動内容のご紹介」のパンフレットも 毎年改定していくこととしました。ただ印刷物ですと一年の間に色々な活動が行われますので、事務局でも「NPOクラブの紹介資料集」をデータ保管し、常に新しいものにカスタマイズして、利用出来るようにしております。

そしてまた、今年も広報チームに新しいメンバーが参画し、全体的にパワーアップしました。ぜひ、皆さんに一読していただき、NPOクラブの活動へのご理解と、今後のご協力をお願い申し上げます。

井料 敏和

<広報編集メンバー>

井料 敏和 (リーダー)、谷 文彦 (サブリーダー)、橘田 てつ子、杉田 一志、
井上 真巳子、野村 紀子